

聞く 聴く 訊く

校長 宅島 健司

さる11月16日（土）佐世保市体育文化館コミュニティーセンターにおいて、令和元年度佐世保地区公立校等学校PTA研修会が開催されました。ご参加いただいた本校育友会会員の皆様に心から感謝申し上げます。講演は『『子どもの生きる力を育む』ために』という演題で、本校卒業生の女優・歌手である緒方美穂氏によるものでした。アクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、生きる力の重要な要素であるコミュニケーション力を培う方法として、子どもの話を傾聴することの重要性について説く講演でした。経験や教育プログラムの実践例を交え、「聞く・聴く・訊く」それぞれの意味に触れながら、聞くことが話すことを促し、子どもの自己肯定感を高め、信頼関係が構築されるという内容でした。

さて、私の教員生活の中で、「聴く」ことに関連して3名の生徒が想起されます。

一人は、担任した文系クラスの生徒で、理解力・読解力において非常に秀でた生徒でした。クラスの生徒を見渡すと、私が話すときはいつも穏やかな顔で時にはこやかにこちらを見て話を聴いていました。遠距離通学だったので、授業内容を一言も漏らすまいと懸命に聴いていたのだと思います。その生徒が受験した2003年センター試験の国語は、それまでで一番難しく全国平均点は101点でした。その中で、その生徒は184点の点数を獲得しました。

二人目と三人目は、同じ理系クラスの生徒でした。一人は男子。1年次は広島大学を目指していましたが、先生方は学力的に難しいと考えていたようでした。授業態度が非常によく、2年次には広島大学を志望するに足る学力を身に付けていました。私の授業では、私の姿が座席の前の生徒と重なる位置にあると、体を横にずらして、真剣な表情で話を聴いていました。時折、うなずくその表情が今でも浮かびます。課題や定期考査への取組も申し分なく、3年次は九州大学を志望していました。

もう一人は女子。学力が高く、穏やかな生徒でした。私ごときの授業をこれほど真剣に聴くのか、と思えるような授業態度であり、この生徒も私の姿が前の座席の生徒と重なると、身を乗り出して授業を聴いていました。この2人がいることで、こちらもうかうかしておられず、他クラスにも増して、しっかり準備をして授業に臨んでいたと思います。誠意という言葉が伝わるような授業態度でした。

三人ともその時間の最初から最後まで真剣であり、4月から翌年の1月まで、その授業態度は変わることはありませんでした。「傾聴」という言葉の意味とその態度の重要性をこの三人に教えてもらったような気がします。一人目の生徒は、九州大学文学部。二人目の男子は、九州大学理学部、三人目は、九州大学薬学部それぞれ合格しました。

さて、君たちはどうでしょうか。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業において、重要なことは聴く態度であると考えます。授業やふるさと創生大作戦のプレゼンテーションで話をする機会が多くあると思いますが、聴者が聴いていなければ、それは意見や考えではなく、ただの音声であり、雑音・騒音です。君たちは、人前で話をする事の難しさや苦勞も知っているはずだと思います。人前で意見を述べている時に、聴者であるべき自分が話をしている、その意見の内容は頭に入らず、ただの音声に過ぎません。人の話は、人に伝わって初めて、考えや意見として意味を持つ言葉となります。このことを妨害している、あるいはないがしろにしている者はいませんか。

集団で集合する時、自分が周囲とただ話すことに熱中していることはありませんか。いつまでも話をして、全体として無駄な時間を過ごしていませんか。その集合は何のためか、自分が何をしなければならないかを忘れていませんか。

「聞く」は音声を耳に感じ取ることで、一般的に聞くことです。「聴く」は、音・声などを内容のあるまとまりとして意志的に感じ取ることで、身を入れて聞くことです。「訊く」は尋ねることです。君たち一人一人が、人の話を「聴く」人であってほしいと切に願います。

人生の達人セミナー

10月24日（木）に、佐世保市出身で現在は「国際教育交流センター」など3つの会社の代表取締役を勤めておられる 平山大樹（ひらやま だいき）氏をお招きし、人生の達人セミナーを開催いたしました。平山さんの高校時代の話や、大学時代での出会いをきっかけに、自分がやりたい仕事に全力で取り組まれてきた経験談をお話しして頂きました。また、「夢は何か」「何がしたいのか」という平山さんからの問いに、生徒は自分自身と向き合い、今後何がしたいのか、そのために何をすべきか、について考える貴重な時間となったようです。会の終了後も平山さんの後を追いかけて、「自分も将来こんな会社を立ち上げたい」などと相談する生徒の姿が印象的でした。平山先生のお話で刺激を受けた西高生が、自分の夢に向かって全力で歩んでくれることを願っています。ご出席いただいた保護者の方、ありがとうございました。また、講演会の前説や司会を生徒が行い、放課後には、1、2年生が企画・運営した「ワールドカフェ～今ある力を100%だすには～」という会が開かれました。今後もこのような、生徒が企画して運営するような取り組みを行うことで、主体性を育み学校にエネルギーを与えてほしいと思います。（研修部）



ふるさと創生大作戦 外部大会結果報告

2年生の「ふるさと創生大作戦」で、移住について研究しているチーム「17班=Mine 佐世保」が、「第23回ボランティアスピリットアワード」において、「コミュニティ賞」を受賞しました。SNSでの情報発信や、パンフレットの作成、MRの料金表を見やすくして地域活性を目指していることが認められた形です。

また、同チームは、11月16日（土）に和歌山市で開かれた「第3回和歌山県データ利活用コンペティション」の最終審査会においてプレゼンテーションを行い、高校生の部で「大賞」を受賞しました。今後の活躍が楽しみです。



コミュニティ賞
受賞

《12月の行事予定》

7	(土)	プレテスト② (3年長崎国際大)
8	(日)	プレテスト② (3年西高)
14	(土)	県一斉 (1・2年)
16	(月)	修学旅行 (~20日 2年 ベトナム)
20	(金)	受験生支援活動 (母の会)
24	(火)	授業中断日冬季講座 (全学年)
25	(水)	冬季講座 (~27日 全学年)
28	(土)	プレテスト③ (~29日 3年)
31	(月)	校舎施錠 (~1月2日)

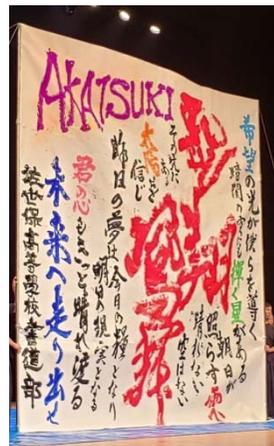
県総文祭

11月8日(金)アルカスSASEBO大ホールにて、長崎県高等学校文化連盟創立30周年記念 第15回長崎県高等学校総合文化祭(しおかぜ祭)総合開会式が行われました。令和初の大会となる今年のテーマは、高校生の可能性や今後の新しい世界への展望を表した『AKATSUKI』。当日は、生徒会代表の大曲さんが西高の紹介を行い、1年生が各専門部・加盟校の紹介や演劇専門部によるステージ、図書専門部によるビブリオバトル、マーチングバンド・バトントワリング専門部の発表を観覧しました。書道専門部、吟詠剣詩舞専門部には、西高の生徒も参加しました。

今年は県北支部が運営担当となり、テーマ決定から総合開会式の運営までを手がけました。生徒会役員4名も式典班として活躍し、4月から会議を重ね、開会式や生徒アピールの企画・運営に関わってきました。大会副実行委員長の廣川さんによる開会宣言を皮切りに、熱い思いがこめられたパフォーマンスが光りました。(生徒会)



廣川さんの開会宣言



書道専門部作品

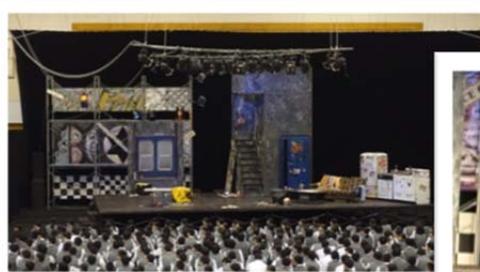


グランドフィナーレ

芸術鑑賞会

10月30日(水)本校体育館にて、芸術鑑賞会が行われました。今年は東京演劇集団風のみなさんによる演劇『Touch～孤独から愛へ』を鑑賞しました。「ホールと同じ舞台を」という情熱のもとでフロアに組まれたセットは、細部まで作り込まれ、体育館を劇場に変えました。3人の演者によって展開される、親を亡くした兄弟と二人を見守る男性の物語は、生徒の心の琴線に触れ、2時間という上演時間もあっという間に感じられました。

ステージから50cmほどの最前列で鑑賞した3年生は、「これほど間近で演劇を観たことはなかったので、その迫力や、役者さんの熱に圧倒された。」と話していました。(生徒会)



主な試合などの結果

<ハンドボール部>

○令和元年度佐世保地区高校新人体育大会ハンドボール競技大会 **男子 優勝**

○長崎県高校新人体育大会ハンドボール競技大会

男子 準優勝(九州大会出場!) **女子 第3位**

<ソフトテニス部>

○令和元年度長崎県高等学校新人体育大会ソフトテニス競技大会

中島花梨・永木美翔ペア ベスト8(九州大会出場!)

<バドミントン男子>

○令和元年度長崎県北地区高校新人体育大会第54回バドミントン競技大会 団体 第3位

<バスケットボール男子>

○令和元年度長崎県高校地区新人体育大会バスケットボール競技大会 第3位

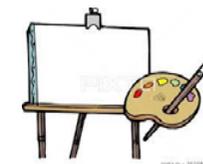
<陸上部> ○令和元年度長崎県高校総合体育大会駅伝競走大会 男子:23位 女子21位

<美術部> ○令和元年度長崎県高等学校総合文化祭【美術専門部】県高校美術展

デザイン部門 : **優秀賞 吉浦 麗奈(九州大会出場!)**、佐坂 慶悟
優良賞 田中 滉人、永安 名月、廣川 京香

○第64回長崎県美術展覧会

デザインの部 NCC長崎文化放送賞 内海 勝太郎
入選 前山 裕泉



<放送部>

○令和元年度長崎県高等学校総合文化祭第41回九州高校放送コンテスト県北地区大会

アナウンス部門 優秀賞 西村 友里、松山 未来

○令和元年度長崎県高等学校総合文化祭第41回九州高校放送コンテスト長崎県大会

アナウンス部門 優秀賞 松山 未来(九州大会出場!)

<書道部> ○第64回長崎県美術展覧会 書の部 入選 浦川 優香

<図書文芸部>

○令和元年度長崎県高等学校総合文化祭文芸コンクール

部誌部門 佳作「文雅」、詩部門 佳作 北方智琉、俳句部門 佳作 池口千嘉子(来年度九州大会出場)

<その他>

○第23回ボランティアスピリットアワード

地方創生部門 コミュニティ賞 河邊りり、今里歩夢、井口唯翔、小西花恋、北村亜衣香
ボランティアスピリット賞 河邊りり、今里歩夢、井口唯翔、小西花恋、北村亜衣香

○第3回和歌山県データ活用コンペティション大会

大賞 河邊りり、今里歩夢、井口唯翔、小西花恋、北村亜衣香